

電子ジャーナルへの永続的アクセスの不安定性 ープラットフォームにおける提供実態調査からー 井之口 慶子（慶應義塾大学大学院 kino@slis.keio.ac.jp）

1. 研究背景および目的

大学図書館では近年電子ジャーナル (Electronic Journal, 以下 EJ) の導入が増える一方で、印刷版雑誌を購読中止する傾向がある。

印刷版雑誌の場合、提供・保存の場は図書館の書架である。最新号が出ると図書館に納品され、図書館員が書架の該当の場所へ配架する。EJ の場合は、出版社等の運営する Web 上のプラットフォームに各 EJ の Web ページが存在し、最新号が出るとそこへアップロードされる。EJ の導入とは各図書館がその Web ページへのアクセス権を購入することである。つまり図書館にとっては、EJ の Web ページへ永続的にアクセスできる状態が、印刷版雑誌を書架上で提供・保存するのと同等の状態といえる。

永続的アクセスを可能とするには、EJ の Web ページが存在し続け、常にアクセスできる状態でなければならない。恒久保存の観点から、プラットフォームとは別にアーカイブをつくる取組みはある。¹⁾しかし、日々内容が更新されるプラットフォームでの EJ 提供状況の実態を報告する調査はほとんどない。プラットフォームは図書館の書架と異なり、図書館員の管理が及ぶ範囲ではなく、適切な提供状態を維持しているかは不明である。本研究は、プラットフォーム上での EJ 提供状況が、刊行状況の変更

に対応した適切な状態となっているかどうかを明らかにすることを目的とする。

2. 調査

2.1 調査対象

刊行状況の変更がプラットフォームに適切に反映されているかどうかを判断するため、2006-2007 年にかけて刊行状況に変更が生じ、且つ変更前後の 2006-2007 年間にプラットフォーム上に存在した EJ を対象とした。なお 2007 年に創刊された EJ, 2007 年から新たに EJ 化された EJ は、2006 年にはプラットフォーム上に存在しないため、対象から除いた。対象 EJ の抽出には、2004 年に Lee Van Orsdel の行った調査²⁾を参考とし、代表的な出版社 15 社の 2006 年と 2007 年の価格リストを用いた。15 社の内訳は、Elsevier, Springer, Taylor & Francis, Blackwell, Wiley, Sage, Nature Publishing Group, Karger の商業出版社 8 社、AIP, ACS, APS, ACM, RSC の学協会系の出版社 5 社、Cambridge University Press, Oxford University Press の大学出版社 2 社である。これら 15 社の 2006 年に取り扱った合計 6758 誌、2007 年に取り扱った合計 7041 誌を出版社ごとに照合し、2006-2007 年間で増加した 495 誌、減少した 112 誌の合計 607 誌を抽出した。これらの刊行状況の変更内容を Ulrich's

periodicals directory や 出版社の Newsletter 等で特定し、2007年に創刊およびEJ化されたEJ、対象の15出版社間で移行したEJの重複分、刊行状況の変更理由が不明のものを除外し、最終的な調査対象EJは303件となった。内訳は、「誌名変更」27件、複数のEJがまとめられ新しい誌名のもとに刊行される「統合」2件、複数のEJが既存のEJに組み込まれて刊行される「吸収」9件、「廃刊」14件、雑誌が出版者を移る「移行」251件である。1誌のEJに複数の変更が生じている場合は、変更の件数を重複して数えた。

2.2 調査手順と結果の分類

刊行状況に変更が生じたEJは、廃刊以外は基本的に、変更前である2006年までのWebページと、変更後の2007年からのWebページが存在する。対象抽出段階で得た情報をもとに、対象EJの両方のWebページに

アクセスし、以下の基準で実態を調べた。

- EJの提供範囲（巻号、本文の有無）
- EJの連続性（書誌変遷、巻号のつながり）

調査は2007年9月～10月に行った。

3. 調査結果

3.1 調査結果の概要

303件中、EJ本文がプラットフォーム上に存在しない（「EJ本文の消失」）が19件（6%）、EJ本文がプラットフォーム上に存在するが何らかの事情でアクセスが困難となっている状態（「アクセス障害」）が196件（65%）あった。刊行状況の変更内容別に発生件数が全体に占める割合を第1表に示す。「EJ本文の消失」では4種類、「アクセス障害」では5種類の提供状態があり、それらを図式化したのが第1図である。なおURLが変更されていても、プラットフォーム上にEJ本文が存在すれば消失とはみなして

第1表 刊行状況の変更内容別にみた提供状況 (n=303)

刊行状況の変更内容 (件数)	EJ本文の消失			アクセス障害		
	EJ提供タイプ*	EJ本文の消失の程度 (発生件数)	発生の割合	EJ提供タイプ*	アクセスが困難な状態の内容 (発生件数)	発生の割合
誌名変更 (27)	-	-	0% (0件)	E F	変更前誌と変更後誌の相互参照ができない (2) 前誌名を用いては、変更前誌と変更後誌の両方にアクセスできない (7)**	5% (9件)
統合 (2)	-	-	0% (0件)	-	-	0% (0件)
吸収 (9)	-	-	0% (0件)	E	吸収前誌と吸収後誌の相互参照ができない (3)	2% (3件)
廃刊 (14)	A	全巻号 (1)	5% (1件)	-	-	0% (0件)
出版社間移行 (251)	B	2007年以降の刊行分 (6)	95% (18件)	G	2006年までのWebページから、EJのどの号へもアクセスできない (91)	94% (184件)
	C	全巻号 (3)		H	2006年までのWebページから、EJの一部の号へアクセスできない (76)	
	D	移行元が提供する最後の号と移行先が提供する最初の号の間 (9)		I	2007年からのWebページから、EJの一部の号へアクセスできない (17)***	
	計		100% (19件)	計		100% (196件)

*EJ提供タイプの詳細については第1図を参照

**うち2件は前誌Webページに「廃刊」と不正確な情報を表示

***以下の2種類の場合のみの発生件数 1)移行元の提供範囲が移行先の提供範囲を包含、2)移行先と移行元で相互に補完的にEJ本文を提供

第2表 出版社間移行のあったEJの提供状況 (n=251)

出版社間移行の種類	移行元 → 移行先	EJ本文の消失 発生件数	アクセス障害 発生件数	出版社間移行の種類別 発生の割合	
				EJ本文の消失	アクセス障害
雑誌単独で 出版社を移る (153)	大手15社** → 大手15社 (33)	4 (22%)	15 (8%)	12% (4/33件)	45% (15/33件)
	大手15社以外 → 大手15社 (103)	7 (39%)	71 (39%)	7% (7/103件)	69% (71/103件)
	大手15社 → 大手15社以外 (17)	4 (22%)	12 (7%)	24% (4/17件)	71% (12/17件)
買取 (40)	大手15社以外 → 大手15社 (40)	0 (0%)	40 (22%)	0% (0/40件)	100% (40/40件)
出版事業提携 (58)*	大手15社以外 → 大手15社 (58)	3 (17%)	46 (25%)	5% (3/58件)	79% (46/58件)
計 (251)		18 (100%)	184 (100%)	7% (18/251件)	73% (184/251件)

*出版事業提携とは、移行元でも移入先と並行して2007年以降も引き続きEJを提供し続ける状態

**大手15社とは、本調査で対象とした15出版社を指す

調査対象の83% (251/303件)が出版社間を移行したEJとはいえ、これらが「EJ本文の消失」の95%(18/19件)、「アクセス障害」の94%(186/196件)も占めていた(第1表)。出版社間移行の251件を、出版社間移行の種類別に調査結果を細分化した(第2表。第1表のEJ提供タイプB, C, D, G, H, I部分に対応)。出版社の種類で見た場合、もっとも発生の割合の少ない、「大手15社→大手15社」での移行でも、移行したEJの45%でアクセス障害が生じ、「買取」されたEJでは100%にのぼった。出版業界は大手による寡占化傾向にあり、「買取」されるEJ数が増加すれば、アクセス障害がさらに増加する可能性もある。出版社間移行で生じる問題を解決する取組としてTransfer[®]があるが、出版社の協力を大きく依存するものであり、事態解決にどの程度寄与するかは未知数である。

5. まとめ

プラットフォーム上で、「EJ本文の消失」と「アクセス障害」生じ、刊行状況の変更に応じた適切な提供がなされていない状態が存在することが判明した。一度図書館で所蔵されればそこに固定される印刷版雑誌

と異なり、提供場所や提供形態に流動性があるのはEJ特有の問題で、永続的アクセスを不安定にする要因であると考えられる。

本調査は、代表的な15出版社のEJで、刊行状況に変更のあった303件という限定された範囲で行った。しかしEJの大部分は刊行状況の変更はなく、図書館が導入するEJは出版社に限らずアグリゲーター経由のものも相当数ある。また本調査では購読機関のアクセス権を考慮しなかったが、出版社間移行でアクセス権のないプラットフォームへEJが移ればEJ本文の消失も起こり得る。EJ提供状況の実態をより正確に把握するためには、これらも調査対象とすることが必要となるであろう。

引用文献

- 1) Anne, R. Kenney et al. E-Journal Archiving Metes and Bounds: A survey of the landscape. 2006, 128p, <http://www.clir.org/PUBS/reports/pub138/pub138.pdf>, (参照 2008-09-07)
- 2) Van Orsdel Lee C.; Born, Kathleen. Periodicals Price Survey 2004: Closing in on Open Access. Library Journal. 2004, vol.129, Issue7, p.45-50
- 3) United Kingdom Serials Group. "Transfer". <http://www.uksg.org/transfer>, (参照 2008-09-07)